

編集後記

今回で最終号となりました。この「若者向け広報紙」を通じて出会った皆さんは、それぞれが自分の道をまっすぐに進んでいるたくましい方々ばかりでした。ご登場をいただいた方々のほかにも、縁あって鶴ヶ島に関わり、色々な活動をされている方はたくさんいることでしょう。これからも、様々な取材を通し、もっと多くの方々に会いたいと思います。ご愛読ありがとうございました。

See you!

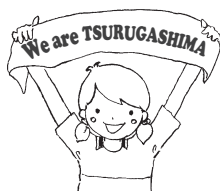
“そこそこ”から居心地のいい“ソコ!”へ

Soco-Soco

TSURUGASHIMA



提供：浦和レッドダイヤモンズ



編集・発行元
埼玉県鶴ヶ島市総合政策部市政情報課
〒350-2292
埼玉県鶴ヶ島市大字三ツ木 16 番地 1
☎049-271-1111
<http://www.city.tsurugashima.lg.jp/>

若者向け
♡
広報紙

3月号



毎月15日発行



January 10, 2016

インタビューは成人式当日。スーツ姿で現れた関根貴大さん。ユニフォームを脱げばいわゆる普通の二十歳の青年。成人式では、懐かしい友人や恩師との再会に、終始笑顔で、話をしたり写真を撮ったりしていました。「鶴ヶ島には時間を見つけて帰ります。今の自分があるのは、サッカーを始めた頃からずっと支えてくれた両親や仲間がいたから」。プロサッカー選手「関根貴大」を育んだ場所、彼の「ふるさと」がここにあります。

We are TSURUGASHIMA

まち × ひと × ころろ

鶴ヶ島は埼玉です！ 鶴ヶ島から世界に！



鶴ヶ島のイメージは？

「鶴ヶ島」という名前を変えた方がいい(笑)。とにかく誰も埼玉県にあるとは知らないです。「どの島？」と聞かれるので、いつも困ります。逆に、名前のインパクトは相当強いので、それを外に向けてどう発信していくのが大事だと思います。自分も鶴ヶ島の知名度UPに貢献できれば嬉しそうです。

小さい頃から、サッカーさんまででしたが、若葉ウオークで映画を観たり、近くの畑に寝転がって流星群を観たこともありました。何もないけれど、ちよつどいい住みやすが鶴ヶ島にはあると思います。

—— おとし、地元の子どもたちにサッカーを教えに来てくれましたね。

一人で教えにきたのは初めてで緊張もありましたが、昔を思い出して楽しかったです。一緒にやっついて、小学生ながら自立つ子もたくさんいました。でもそういう選手は全国にはたくさんいますから、そこから何ができるのかが、その道への第一歩。自分にしか

いものをどう生かし、挫折をいかに成長に変えられるかが大事です。

自分も小学生の時、河合竜二選手(鶴ヶ島育ち。現コンサドーレ札幌所属)が少年団にサッカーを教えに来てくれたことを今でも覚えています。それだけ最初に出会う存在は大きい。鶴ヶ島の子どもたちにとって、今度は自分がそういう存在になりたいです。今回は日程が合いませんでしたが、ぜひ毎年参加したいです。

サッカーから得たものは？

サッカーを通して、たくさんの人に出会い、サッカー以上に人として多くを学びました。幼少期にどれだけ、道を示してくれる人に出会えるかは大事だと思います。特に自分が間違った時に、正しい方向に導いてくれる人や、過ちも含めて自分を認めてくれる人の存在は大きいです。

中学生の時、学校のガラスを割ったことがあります。サッカーボールを思いっきり打ち込んでしまった。そこにゴールが見えたから(笑)。学校の先生には、すごく怒られました。当時のコーチ

せきね たかひろ

関根 貴大

浦和レッドダイヤモンズ所属

鶴ヶ島市出身。FC鶴ヶ島サッカー少年団から中学入学と同時に浦和レッドダイヤモンズのジュニアユースチームへ加入。幼少時代から足が速く、他のチームからも注目される地元では有名な選手だった。2014年よりトップチームへ昇格。2015年5月Jリーグ月間MVP受賞。レッズ期待の若手のホープ。

Takahiro Sekine

My precious thing

運動公園で、地元の子どもたちと楽しそうにボールを追いかける関根選手(2014年12月)。サッカー教室が終わった後、関根選手の周りにはサインを求める子どもたちの長蛇の列が。一人ひとりに丁寧にサインを書いていました。「ファンは大切に」が両親の教え。



には褒められました。「さすがストライカー」。そういう風に視点を養えてみてくれる大人って、今思うと有り難いですね。ガラスを割っておいで言うのもなんです。が、そういう子どもの個性は大切にしてほしいですし、自分みたいな子どもが鶴ヶ島から出てくれば頼もしい!

—— オフは何をして過ごしますか？

最近はゴルフです。プロの試合は、一試合に使うエネルギーが尋常じゃない。4万人の中で試合をするというのは、想像以上で、自分じゃないような、そんな感覚に陥ります。1本ダッシュをするだけでも信じられないくらい息があ

がる。スタジアムには、そういうプロの重圧があります。先日、オフで地元に戻ってきた時には、近くのボーリング場に行きました。ずっとオンの状態でいると、どこかで切れてしまうので、たまにはサッカーを忘れることも大事です。

鶴ヶ島の子どもたちへ

自分の決めた道を信じ続けることが大事です。時には、壁にぶち当たり、困難や挫折もあると思いますが、それが逆に自分を成長させてくれるのだと信じ、自分はこのなるんだという夢を諦めずに努力できる人になってほしい。僕もまだまだ夢の途中。

「鶴ヶ島から世界に羽ばたきます!」

